

1. 2020 年度事業実績報告

(1) 事業の概要・実績

1) 2020 年度事業概要

新型コロナウイルス感染拡大により、一年をとおして予防対策に追われた。幸い、年度内に利用者および職員に陽性者はでなかったが、事業運営への影響は大きかった。

(1) 就労支援サービス

感染拡大期に一部在宅訓練を実施。また、公共交通機関を使用する利用者の自宅待機を行った。生産活動の売上は、年度前半に落ち込み、後半は消毒作業やエチケットパーテーション等のコロナ受注もあり、昨年度なみまで回復した。

(2) 介護支援サービス

対面面会の制限、外出外泊自粛要請等、利用者のご家族への協力依頼が続いている。また、納涼大会をはじめとした各事業所での催事を中止、外出行事は縮小せざるを得なかった。

(3) 補助金等

新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業支援金 13,852 千円、雇用調整金 5,600 千円を活用した。

コロナ禍により、従来のモノづくり以外の分野、特に IT 関連事業への模索が加速した。例えば、アバター（newme, オリヒメ）を活用した実証実験、AI 学習のデータ入力作業の研修、テレワークによる医療機関の手術事例データ入力作業等、5G の時代に向けてスタートを切った。

新規企業との連携も進み、別府本部内に、ドローン事業による雇用拡大を目指し、株式会社 ADE が設立された（4 月 1 日）。また、株式会社安川電機人事部分室の誘致に成功。2021 年 4 月の発足に向けて、従業者の選考、訓練等の準備を進めた。

なお、2020 年度は、別府 8 名、京都 4 名、愛知 41 名、障がい者就業・生活支援センターから 41 名、計 94 名が社会復帰した（A 型移行も含む）。

2) 2020 年度主要事業

●はコロナ禍に大きく影響された項目

I 太陽の家理念の発信、東京パラリンピック関連事業（中村裕基金事業）

【法人】

- 太陽ミュージアムは、コロナ感染拡大の合間を縫ってオープン(7月3日)。その後、開閉館を繰り返したが 2395 名が来館、内オンライン見学は 204 名にのぼった。
- 東京パラリンピック延期に伴い、聖火関連の事業も延期。規模を縮小しつつも次年度に向けて事前準備を継続した。
- フジテレビ系列「奇跡体験！アンビリバーボー」で、太陽の家の創設が中村裕博士による奇跡として取り上げられ、全国放送された（10月15日）

II 障がいのある方の雇用促進

【雇用】

- A 型倉庫管理は、コロナ禍で業務量拡大ならず、増員できなかった。
- A 型サンストアは、太陽ミュージアムショップの管理を開始した。（7月）

【就労】

- 移行支援は、コロナ禍による採用活動自粛で、中途利用者の補充を行えず、利用率 74%となった。
- 定着支援の契約者は9名、うち8名が定着している。
- B 型工賃は、コロナ禍による年度前半の売上減少が響き、11%減となった。
- ICT 推進科を開設し、1名はテレワークで訓練している。また、コロナ禍でドローンメンテ作業の導入研修が困難となったため、新たにデータ入力作業の導入準備を行った。

【愛知】

- 就労支援センター（公益事業）からデンソー太陽に 33 名就職した。
- 移行支援から一般就職はできなかったが、A 型に 1 名雇用された。
- 定着支援は、6 か月定着率 100%を達成した。
- A 型清掃科は、近隣施設清掃を確保し、利用者 4 名を達成した。
- A 型製造科は、8 名採用したが 7 名がステップアップを目指し就労支援センターへ移行、現員 6 名となった。

【京都】

- 移行支援を利用者 3 名で開始（4月）。3 名全員就職決定した。
- 定着支援を利用者 10 名で開始（4月）し、途中で 2 名が追加利用となった。
定着率は 100%を達成した。
- A 型は、1 名が見学案内業務を開始し、継続している。
- B 型は、コロナ禍による採用活動自粛で新規利用者 2 名増の 62 名となった。

III 施設・事業の再編と財務安定化

【総務】

○福祉ホーム亀川ハイツ（定員 13 名）を開設（4 月）7 名入居中。

【就労】

○プロジェクトにて B 型および施設入所支援利用者の推移を予測し、適正定員を検討した。今後の事業計画の基本データとする。

○作業科再編により、ワークショップ全体の訓練等給付費収入が増加した。

【愛知】

●日中一時支援では、コロナ禍による採用活動自粛で、一日当たりの利用者は 5 名となった。

●生活介護では、コロナ禍による採用活動自粛で、一日当たりの利用者は 10 名となった。

【京都】

○A 型を再編し、多機能型（A 型 34 名 移行支援 6 名）で開始した。現員 A 型 36 名、移行支援 3 名で実施中。

○施設入所支援の廃止手続き完了（9 月末）。利用者は福祉ホームに移行した。

【日出杵築 生活】

●ゆうわ・ゆたか再編（ゆたか本館移転）については、パラリンピック及び大分国際車いすマラソン記念大会の延期により、工事時期を変更した。2022 年上期実施に向けて継続検討。

IV 高齢化 重度化対策

【就労】

○B 型利用者対象とした入浴状況把握システムは、試行するも年度内実施には至らず、2021 年度 5 月より運用開始。

【愛知】

○生活介護に浴室を設置し、機械浴を導入した。（52,120 千円 内補助金 32,340 千円）

○定年まで就労するためのアセスメントとして、34 名の利用者に節目基礎体力測定を実施した。

【京都】

●コロナ禍で外部 OT の来訪が不可能となり、一部リモートによる指導を実施した。

○作業負荷軽減を目標とした 2 テーマで改善活動に取り組み、3 月には最終報告会を行った。

【日出杵築】

○浴室天井走行リフトを、ゆうわと広寿苑に各 1 台設置した。（2,250 千円）

V 社会への貢献

【総務】

●ラオスパラスポーツ支援については、コロナ禍で、現地指導および研修生の受け入れはできなかったが、別府市の共生社会ホストタウン事業として、オンラインでラオスアスリートと小学生との交流を実施した（10 月）

【生活】

○相談支援事業基幹センターでは、強度行動障害等専門研修受講により受け入れ体制整備し、相談件数が増加した。

- 共同受注センターは、自立化を支援し、2021年4月より新法人による運営を開始した。
- 障がい者就業・生活支援センターでは定着支援事業を開始（4月）、291件の定着訪問を実施した。
- コロナ禍でクラブ活動は自粛、行事は中止となったが、クラブ活動支援に関する内規を制定し、公平で継続的な支援の基盤を整備した。

VI 計画的建物改修整備計画の立案と実施

【総務】

- 太陽住宅廃止手続き完了（10月末）
- 杵築工場と土地売却完了（7月 12,000千円）
- 第一作業棟3Fファンコイル更新（4,950千円）
- ゆたかキューピクル改修 部品調達の問題で次年度に延期
- ゆうわ受電設備改修 非常電源設備改修を優先したため次年度に延期

【京都】

- 西駐輪場・夫婦棟浴場間不陸改修（6,864千円）
- 作業棟変圧器交換（215千円）
- 工場棟1F陸屋根防水（2,169千円）
- 管理棟自動水栓設置（1,474千円）
- 男女浴場エアコン交換（1,018千円）
- 管理棟会議室自動ドア工事（1,210千円）

VII 職員就労環境の整備

【総務】

- パートタイム・有期雇用労働法施行により、有期雇用者の休職制度、時間単位有給休暇、昇給制度、賞与支給等整備し、有期雇用者と正規職員との待遇の均等、均衡化を図った。
- 職員満足度調査に代わり、ストレスチェックの中の集団分析の結果を活用することにした。所属集団の状況について職員にフィードバックし、全国平均より緊張感が高い集団については、フォロー面接を実施し、原因を探った。

【生活 日出杵築】

- ゆうわと広寿苑に介護記録システムを導入し、情報共有の迅速化を図った。
- ゆうわに、見守り介護機器（マット型生体センサー）の導入を開始した。
- ロボット導入支援事業等により、広寿苑にリフト4台と浴室天井走行リフト1台、ゆうわにリフト5台と浴室走行天井リフト1台を追加した。
- ノーリフティング研修に参加し、施設内でスライディングボード使用方法や腰痛予防の研修を実施した。
- サービス班活動を定期的に実施。年度末には成果発表会を実施することで、班活動の活性化に結び付けた。